講　演

第39回全国大会にあたって

——会長あいさつ——

三　浦　武　雄†

おはようございます．私ただ今ご紹介に与りました会長の三浦でございます．本日は朝早くから皆様にご出席を賜わりまして第39回の全国大会をこの地の工業大学で盛大に開催できましたことに対して厚く御礼を申し上げる次第でございます．開催に当たりましては，何と言いましても会場を提供賜わりました当地の大学の皆様方，ならびにこの準備に全力を注いでいただきました九州支部の関係者の方々に厚く御礼を申し上げる次第でございます．

さて，この本39回の全国大会につきまして，簡単に数字で申し上げておきたいと思うのでありますが，発表件数は1168件ということでございまして，昨年のちょうどこれに対応いたします秋の大会が1075件ということで，大変数がふえておるわけでございます．皆様方会員の本大会に対しますご関心の大であるということの成果であると感じておる次第でございます．

さて，私，今年の秋から情報処理学会の会長という重責を負っているわけでございますが，何せ会員が3万人という大学会でありますとともに，いわゆる高度情報化時代ということで，全世界が大変な変革をしておるわけでございますが，その学問の中枢を担当いたしますこの学会であるだけに，私ども会員の皆様方の，非常に期待されてるところ大でございます．その会長ということで，私大変責任の重大さを痛感しておる次第でございます．

後ほどいろいろなことについて申し上げたいと思うのでありますが，私も学会につきましてはまったく無経験ということではございませんで，いくつかの学会を経験させていただいてるわけでございますが，何せ最近の事情というのは非常に大きく変わってきておりますだけに，皆様方のご意見を十分に吸わせていただきまして，この学会がますます大きく期待に添うように発展していくことに対しまして頑張っていきたいと思いますので，何とぞよろしくご協力を賜わりたいと思う次第でございます．

せっかくの機会でございますので，この学会につきましていろいろ最近の状況などをお話申し上げるべくOHPを用意してるわけでございますが，その前に昨年から今年にかけましてのトピックがございますので簡単にご紹介をしておきたいと思います．

まず第1は会費の値上げの問題でございます．これにつきましては大変会員の皆様方のご理解とご協力によりましてこれが達成できたわけでございます．厚く御礼を申し上げる次第でございます．ただこの現在のまま，これを延長していきますと6年しかこの学会の経営がうまくいかないということが分かっておるわけでございまして，それだけに，これも後ほどご説明したいと思うのでありますが，何か抜本的な改善策というのを立案する必要があるんじゃないかということで，関係者といろいろ図ってるわけでございますが，これにつきましても，会員の皆様方ならびに役員，事務局の大変な努力がいるんじゃないかと思いますので，一つ是非ご協力を賜わりたいということをお願い申し上げたいと思います．

それから第2は四国支部の独立ということでございまして，今年の4月に中国四国支部から四国支部が独立したわけでございまして，その結果全国7支部ということになったわけでございます．愛媛大学の相原先生，それから徳島大学の四国の支部長の高橋先生には大変なご尽力を賜わりました．御礼を申し上げる次第でございます．

第3番目は，来年，これも詳細に説明申し上げますが，創立30周年ということになりまして，30周年記念事業というのを計画をしておるわけでございます．これにつきましていろいろ準備を推進をしてるわけでございます．以上が簡単に今年にかけてのトピックスでございます．

それでは学会の概況をOHPでご説明したいと思います．図-1の絵を見ながら聞いていただきたいと思いますが，会員は平成元年の3月現在，3万304人とい

† 本学会会長　第39回 全国大会の会長挨拶として行われたものである．
平成元年10月16日　於九州工業大学

学会の概況

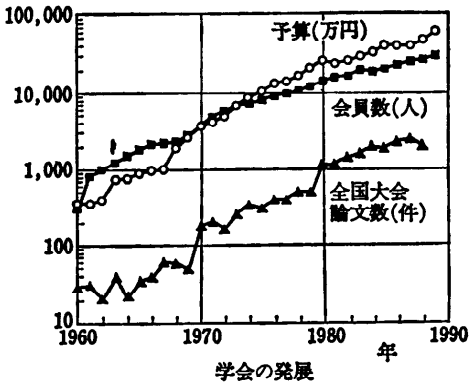
- 会員概況
  会員数　30,304人（平成元年3月現在）
  平均年齢　36歳
  会員の構成　大学・研究所 24.9%
  （企業研究所 8.5% を含む）
  会員10名以上のメーカ　52.1%
  ユーザ・ソフトハウス他 23.0%
- 運営予算
  平成元年度予算　6億2,881万円
  会費依存度　59%
- 創立30周年　来年4月

図-1

うことでございます．今年になりまして，こういう3万人の大学会になったということでございます．情報処理学会ができましたのが35年の4月ということでございますので，当時300名でスタートしたというのが，30年間で約100倍の会員になったということでございます．ただこれ，非常にわれわれ注意しなければならないのは，学会の会員の増加が年に4000人増加するんです．4000人増加するんですが，やめられる方が2000人あるということで，ものすごく変化が大でありまして．これはやはりやめられる方がなぜおやめになるのかということをよく調査をして，学会の会員がなるべく減らないように，むしろふえるように努力をしていきたいというふうに思うわけでございます．電子通信学会がちなみに3万5300ということでございますので，割と近い線にきてるということでございます．次に平均年齢が36歳ということでございますが，過去の数字をみますと，ずっとこの5年間ぐらい35，何歳とか，36歳，この辺のところでございまして，どんどん若い人が入ってきておられるということで望ましい傾向じゃないかなと思ってるわけでございます．次に会員の構成でございますが，大学ならびに研究所が24.9%，企業の研究所が，8.5%という数でございます．それから会員10名以上のメーカが52.1%，ユーザ・ソフトウェアハウスが23%，こういうユーザ・ソフトウェアハウスという所が会員になっているのはこの学会の大きな特徴の一つじゃないかなと思うわけでございます．それから運営予算のほうもだんだんふえて参りまして，元年度の予算が6億2,881万円ということでございまして，大変大きなお金を使っているということだけに，その運営が大変重要であると認識してるわけであります．この中で会費の依存度が59%ということでございまして，その他はシンポジウムその他からの金が運営に使われているということでございます．

図-2は今申し上げましたことを数字で表してるものでございまして，予算はどんどんどんどんと非常に増加する方向にあり，会員はお陰で，年率何%というようなことでずっと上昇の一途をたどってるわけであります．それから全国大会の論文の件数でありますが，1番最後のところはちょっと下がってる，これは実は昨年度でございまして，本年度は書いてないのですが上昇するということは間違いないということでございまして，大変この学会が大きく発展しておりますのはご覧になってもお分かりのとおりでございます．

図-3は創立30周年記念事業ということでどういうことを考えているかということでございまして，やはり何と言いましてもこれを機会に，国際会議を開こうじゃないかということでございまして，InfoJapan '90という名称で，インフォーメーション・テクノロジ・ハーモナイジング・ウィズ・ソサイアティをテーマに京王プラザで開くことになっているわけでございます．その次に記念全国大会ということでございまして，来年の3月13日から16日ということで早稲田大学でやるわけでございますが，これは第40回の全国大会をこういうふうに命名をしてやろうという計画でございます．そのほかに記念の公開の講演会などをもつ予定でございます．それから記念論文といたしまし



学会の発展

図-2

創立30周年記念事業

- 国際会議　InfoJapan '90　'90年10月1日-5日
  於京王プラザ（東京，新宿）
  "Information Technology Harmonizing with Society"
- 記念全国大会　'90年3月13日-16日　於早稲田大学
- 記念論文　応募論文114編（最大10編選定予定）
- 記念出版　「情報処理学会30年の歩み」
- 学会"未来像"の策定
- 記念祝典　'90年6月18日　於虎ノ門パストラル

図-3

学会の課題と施策

- 研究活動の活性化　研究グループ制新設
  小規模国際会議の奨励
- 学会誌の改善
- 財務基盤の安定強化　会費依存体質の改善
  新規事業化の検討
- 国際活動の推進　主導的な国際会議の開催
  近隣諸国との交流促進
- 学会の将来構想

図-4

ては，応募論文が114編ございました。大体 10 編程度を選定する予定ということでございます．記念出版としまして情報処理学会 30 年の歩み，ということでこれは目下編集中でございます．その次に学会の未来像の策定ということでございまして，要するに情報処理学会が今後の情報化社会のいわゆる中枢になる学問を扱う学会としましてどうあるべきであるかという未来像を策定しようということでございます．合わせて情報会館というのを作ろうじゃないかという計画もございまして，そういうことについてのいろいろなプランニングをしてるわけでございます．それから記念式典は，6月18日，虎ノ門のパストラルで開くという予定にしているわけでございますが，やはりこれを実施するためには，いろいろなお金が必要でございまして，特別賛助金のご協力，あるいは関連業界あるいは会員からの賛助金をいただいてるわけでございまして，厚く御礼を申し上げる次第でございます．

最後になりましたが，学会の課題と施策ということにつきまして触れておきたいと思います(図-4)．まず第1は研究活動の活性化ということでございまして，やはり学会ということになりますと，これが大変重要なことでございます．研究グループ制の新設ということ，では，自由で機動性に富んだ活動の促進が狙いでございまして，短期集中的にいろんなことを研究してみようというのが一つであります．それからまた新分野となり得るような，いわゆる苗代的な研究ということもこの研究グループ制を使いましてやってみたいと考えているわけでございまして，これにつきましては特別の資金援助なども考えてやっていきたいというふうに思ってるわけでございます．その1例が音楽情報科学研究グループというのを作りまして，計算機と音楽とのかかわり合いというようなものをたとえば考えてみようということで具体的にスタートをしてるわけでございます．それからそういうことに関連をいたしまして，小規模な国際会議というものを奨励をしていこうじゃないかということを具体的に検討しているわけでございます．

次に学会誌の改善でございますが，やはりこの学会誌というのは会員とのインタフェースということになるわけでありまして，読みやすい学会誌を提供するということは大変重要なことでございまして，改善委員会を設けまして，いろいろ具体的な検討をしてるわけでございまして，少しでも改善にお役に立っていきたいというふうに考えているわけでございます．

その次が財務基盤の安定強化ということでございますが，これは先ほどちょっと申し上げましたように，従来のいわゆる学会のアプローチとして，会費依存ということだけでやっていきますと，収入も会員だけに依存してるわけでございまして，だんだんと先細りになるような感じがするわけでございます．片やいろんなことを学会が中心になって奨励しやっていきたいという，いわゆるアクティブな活動ということを考えてみますとどうしても資金を潤沢にする必要があるというふうに考えるわけでございます．そういうことになりますと，やはり従来よりももう少し前向きに資金を入手いたしましてそれを会員の活動にフィードバックすると，あるいは学会の本部の中に入れていただくというようなことをやりまして，さらに活動を大きくもっていきたいというふうに考えるわけです．これは他の学会では，電気学会とかあるいは機械学会とか，そういう学会ではもうすでに相当積極的にそういう推進もやっておりますし，それから海外では，IEEE がそういうことにつきまして，非常に積極的にいろんなことを考えているわけでございます．そういうことで入手した資金を使いまして，新規事業化ということを図っていきたいというふうに考えるわけでございます．これを担当する財務委員会というのを設立してやっていきたいと考えているわけでございます．

その次には，国際活動の推進ということでございまして，最近のいわゆるインターナショナルなグローバルな時代への対応でありまして例えば国際会議についての，いろいろ各国とのかかわり合いを積極的にもっていく必要があるだろうというふうに考えているわけでございます．特に最近は近隣諸国との交流という問題が大きな課題になっているわけでございます．これらの促進を図っていきたいというふうに考えるわけでございます．

それから最後の項目の，学会の将来構想ということでありますが，会員への更なるサービスの向上，それから柔軟で活発な連携をとるための組織，あるいは関

連学会との連携，学会の将来環境，そういった問題につきましていろいろと構想を練っていただいているわけでございます．というようなことで，いろいろ重要な課題が残っておるわけでございますが，これを推進するためには，当然役員の皆様にはますますいろいろご苦労をかけることになるかと思うんでありますが，やはり学会としましてこれを解決するためには本席ご出席の会員の皆様方のご理解，ご協力があって初めて実現するものでございまして，どうか一つ皆さん，今後のますますのご支援ご指導を賜わりたいということをお願いするわけでございます．

最後に本全国大会が盛大に終了することを期待申し上げますとともに，この本大会の開催に当たりまして，いろいろご尽力を賜わりました九州工業大学の先生方，ならびに九州支部を初めとする学会の関係の委員の方に心から御礼を申し上げまして，私の挨拶に代えたいと思います．どうもありがとうございました．